

主要事業評価シート(第2次実施計画 / R1・2・3年度)

基本事項	計画コード	事業名	部名	生活文化部
	19012	亀山7座トレイル整備・活用推進事業	課名	地域観光課 観光交流G
	施策の大綱	03:交通拠点性を生かした都市活力の向上	財務科目	01:一般会計
	基本施策	04:まちづくり観光の推進	款	07:商工費
	施策の方向	02:観光地の魅力づくり	項	01:商工費
戦略プロジェクト	04:「ジモトノココロ」プロジェクト	目	03:観光費	
事業予定期間	R 1 ~ R 3 年度		主な根拠法令要綱等	

目的・概要	対象	市民、トレッキング・サイクリング愛好客
	目的	本市が有する山、とりわけ市域を代表する7つの山々をつなぐ「亀山7座トレイル」の整備・活用を関係団体と協働で行い、広く周知することで、市の新たな観光資源としての価値を見出し、市民をはじめ、トレッキングやサイクリング等の愛好家に本市の豊かな自然環境に触れていただくとともに、本市への愛着醸成や知名度向上につなげる。
概要	「亀山7座トレイル」登山道活用ネットワークの協力を得て、登山道の整備を進めるとともに、PR活動や登山教室などの活用イベントを開催する。また、中核的な拠点となるビジターセンターの整備や山の起伏を生かしたサイクリングルートの開発も進め、本市のエコツーリズムを確立する。	

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
事業の計画・実績	年度計画	亀山7座トレイルの整備 ・登山専門指導員の配置 ・現地調査、登山道維持補修 (登山道活用ネットワークとの協働) 周知啓発活動 イベントの開催 ・登山教室等 拠点施設の整備 ・ビジターセンターの整備	亀山7座トレイルの整備 ・登山専門指導員の配置 ・現地調査、登山道維持補修 (登山道活用ネットワークとの協働) 周知啓発活動 イベントの開催 ・登山教室等 拠点施設の運用 ・ビジターセンター展示物の充実	亀山7座トレイルの整備 ・登山専門指導員の配置 ・現地調査、登山道維持補修 (登山道活用ネットワークとの協働) 周知啓発活動 イベントの開催 ・登山教室、サイクリングイベント等 拠点施設の運用 ・ビジターセンター展示物の充実	
	年度実績	○亀山7座トレイルの整備 登山道調査及 応急修繕、アクセス道路修繕2回実施、道 標等安全対策整備34か所等 ○周知啓発活動 パンフレット作製及びFIX MY STREETの導入 ○イベントの開催 初心者登山講座1回、 登山イベント2回実施 ○拠点整備 石水溪キャンプ場施設研修 棟にエアコン設置、テレビ・ビデオ購入			
事業の計画・実績	計画額	事業費	3,600千円	3,000千円	3,000千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	一般財源	3,600千円	3,000千円	3,000千円	
	予算額	事業費	3,420千円		
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	一般財源	3,420千円	0千円	0千円	
	決算額	事業費	3,350千円		
		国庫支出金			
		県支出金			
地方債					
その他					
一般財源	3,350千円	0千円	0千円		
人件費	総人件費	2,355千円	0千円	0千円	
	一般職員	2,355千円	0千円	0千円	
	所要人員	0.30			
	会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円	
総コスト(+)		5,705千円	0千円	0千円	
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%	

			令和元年度	令和2年度	令和3年度
指標	名称	仙ヶ岳入山者数	計画値	50	70
		登山ポスト回収数	実績値	124	
			単位	人	人
	名称	登山講演会の開催	計画値	2	4
		初心者登山導入講座、登山講演会、山岳ガイドトレッキングツアーなどの開催	実績値	3	
			単位	回	回
名称		計画値			
		実績値			
		単位			

事業の改善行動	前回評価	[前回評価の対応方針の概要を記入]
	改善行動	[前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか]

		評価	(判定)
事業の評価	活動	[計画どおりに実施できたか] 登山道修繕、道標、ルートテープ等の整備やホームページやFIX MY STREETを活用した最新情報の発信を行ったほか、初心者登山講習会や登山イベントを3回実施した。また、登山ポストについては、従来からの仙ヶ岳登山道入口に加えて、石水溪キャンプ場及び市(観光交流G)でも受付可能とした。	B まずまず実施できた
	成果	[成果は順調に上がったか] 登山専門指導員を中心に亀山7座の各登山道の現地調査を実施し、危険箇所等の現状把握が完了した。それに基づきパンフレットの作製や地図情報システムに難易度設定を行い情報発信を行い、市民はもとより登山愛好家への知名度向上に貢献できた。また、登山イベントは、白杵ヶ岳と筆捨山周辺で実施したが、参加者からは満足度の高い評価をいただいている。	B まずまず成果を得た

今後の対応方針	課題	[課題は何か] エコツーリズムを総合的に発展させていくための仕組みを提案し、エコツーリズムから既存の観光地への訪問につながる取組が必要である。	今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 [その他の場合、その内容を記載]
	対応	[課題に対し、どのように対応するか] 鈴鹿川源流の森づくり協議会、キャンプ場施設事業者、個別の活動団体等と連携し、それぞれの特性を活かしながら協働してエコツーリズムを進めていく。他の先進地事例を学ぶことも大切であるが、まずは協働による登山イベント等を実施し試行錯誤しながら発展させていきたい。	
	効果	[対応することで、どのような効果が期待できるか] 亀山7座トレイルを中心とするエコツーリズムの発信により、これまで違う訪問客層が既存の観光地に訪れることになり、新たなにぎわいと交流が生まれる。	
対応時期		令和2年度	

[1次評価者]	生活文化部 地域観光課 観光交流グループリーダー 木田 博人
[最終評価者]	生活文化部 地域観光課長 木田 博人

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	/	/	B		
	成果	/	/	B		

令和元年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		3,420 千円
内訳	平成30年度からの繰越額	千円
	令和元年度の最終予算額	3,420 千円
	令和2年度への繰越額	千円